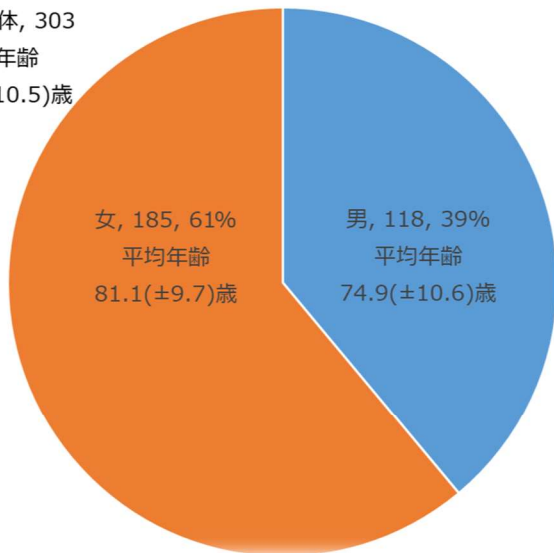


2018.1-6月(第1四半期) 回復期リハビリテーション病棟 入棟退棟者データ

1. 新規入棟者データ(性別・年齢・入棟理由)

回復期病棟 新規入棟者 入棟理由分類 2018.1-6(N=303)

入棟者全体, 303
平均年齢
78.7(±10.5)歳

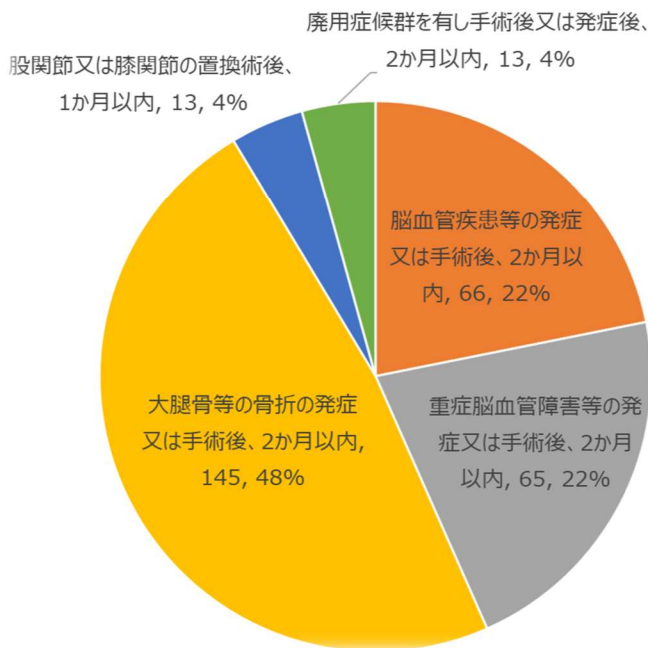


・男女比はおよそ 4:6

・平均年齢は女性 81.1 歳 男性 74.9 歳

・全体の平均年齢は 78.7 歳

回復期病棟 新規入棟者 入棟理由分類 2018.1-6(N=303)

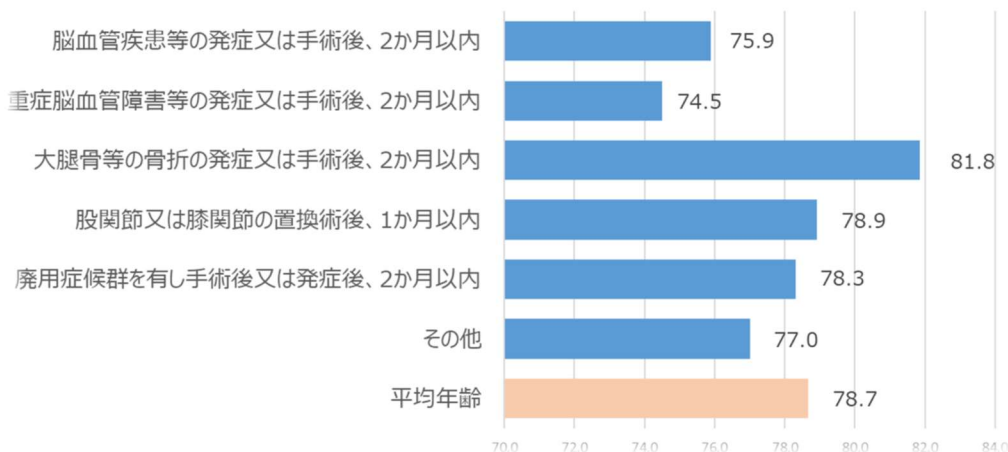


・脳血管系の疾患はおよそ 44%

・運動器系の疾患はおよそ 52%

・廃用症候群はおよそ 4%

回復期病棟 新規入棟者 入棟理由別平均年齢 2018.1-6(N=303)



・重症脳血管疾患が最も若く、およそ 74 歳

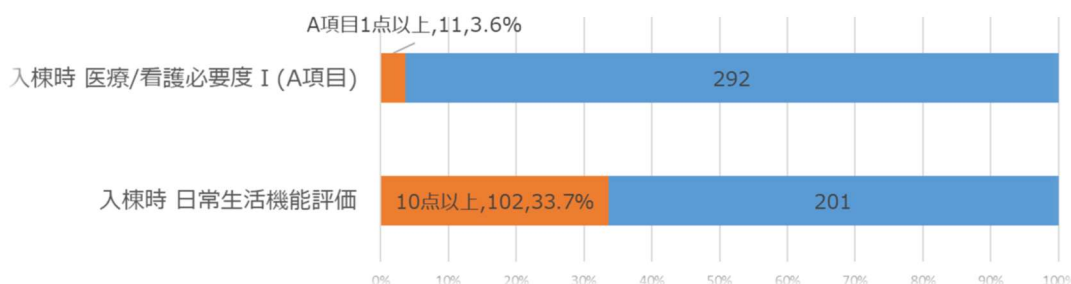
・大腿骨頸部骨折が最も高齢で、81.8 歳となっている

・廃用症候群は 78.3 歳

・日常生活機能評価 10 点以上(重傷者)の割合は 33.7%

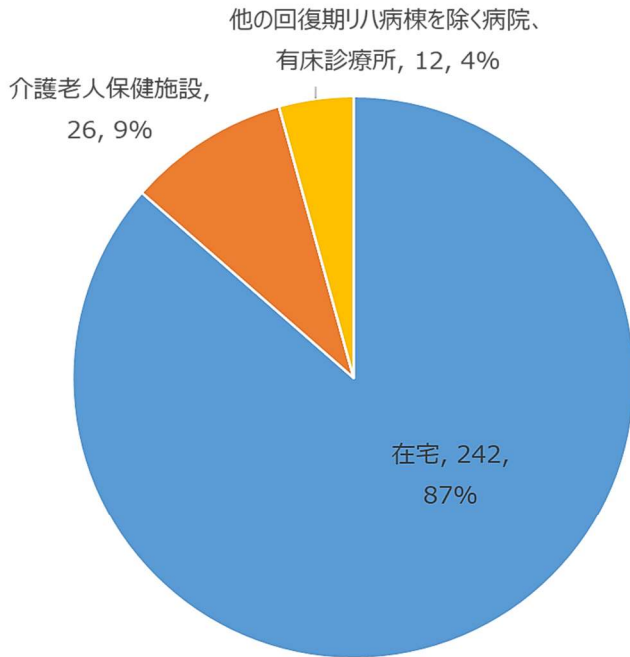
・看護必要度(A項目)1 点以上の医療依存度の高いケースは 3.6%

回復期病棟 新規入棟者 重症度割合 2018.1-6(N=303)



2. 退棟先・平均入棟日数

回復期病棟 退棟者 退棟先分類 2018.1-6 (N=280)



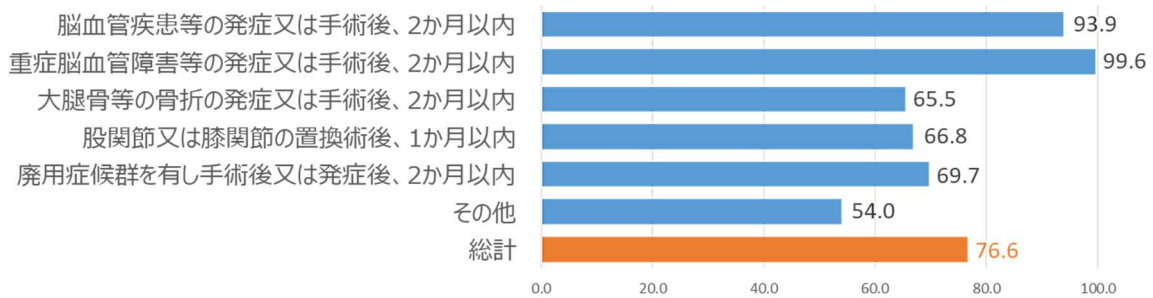
・在宅への復帰率は 87%(※1)

・13%の方が介護老人保健施設や療養病床・病院へ移られている

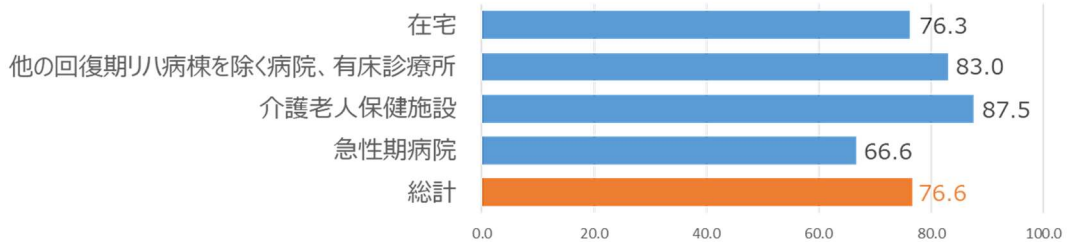
・全国平均 78.3%を大きく上回っている

※1:在宅復帰率は、自宅だけでなく、有料老人ホーム等の福祉施設への退院者も含まれている
また、母数は計算除外者を除いた数となっている
(除外者参考)
*期間中急性期病院転院者 21 名
*その他 1 名

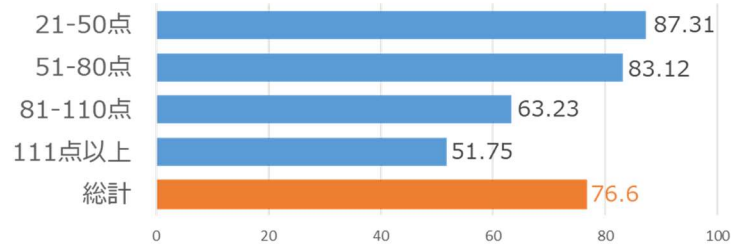
回復期病棟 退棟者 入棟理由別平均在院日数 2018.1-6 (N=235※実績指数対象者)



回復期病棟 退棟者 退棟先別平均在院日数 2018.1-6 (N=235※実績指数対象者)



回復期病棟 退棟者 入院時FIM点数別平均在院日数 2018.1-6 (N=235※実績指数対象者)

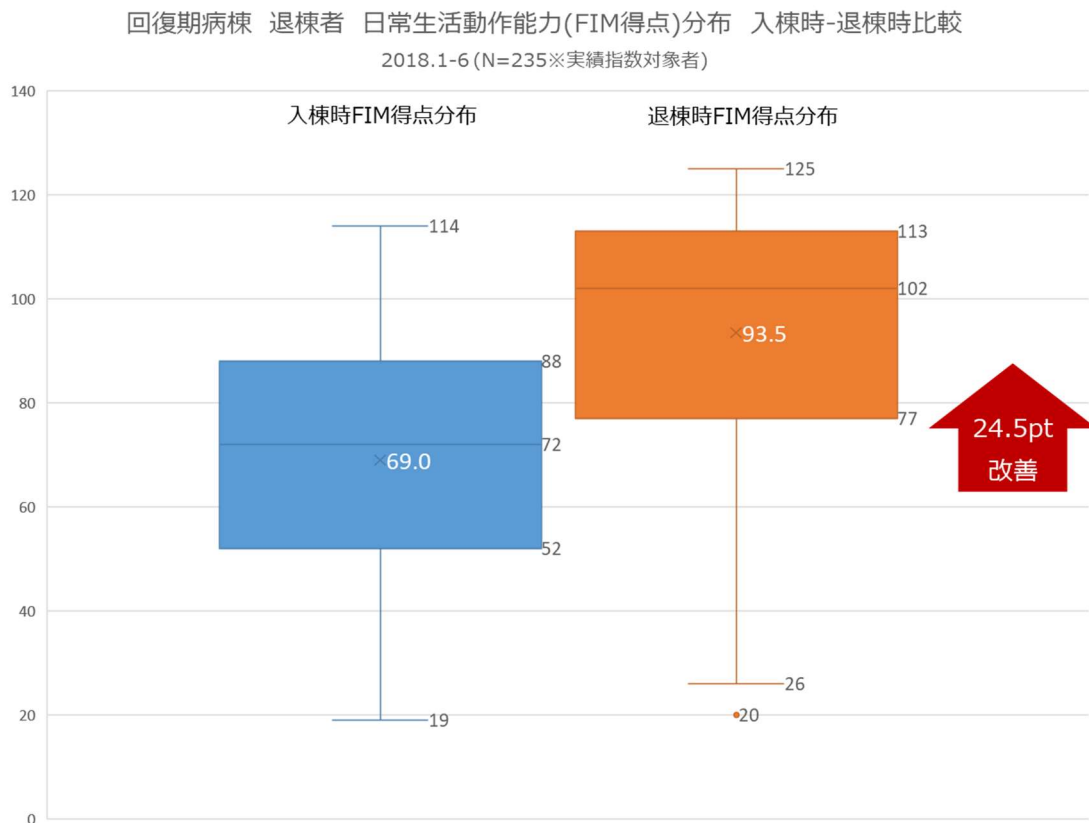
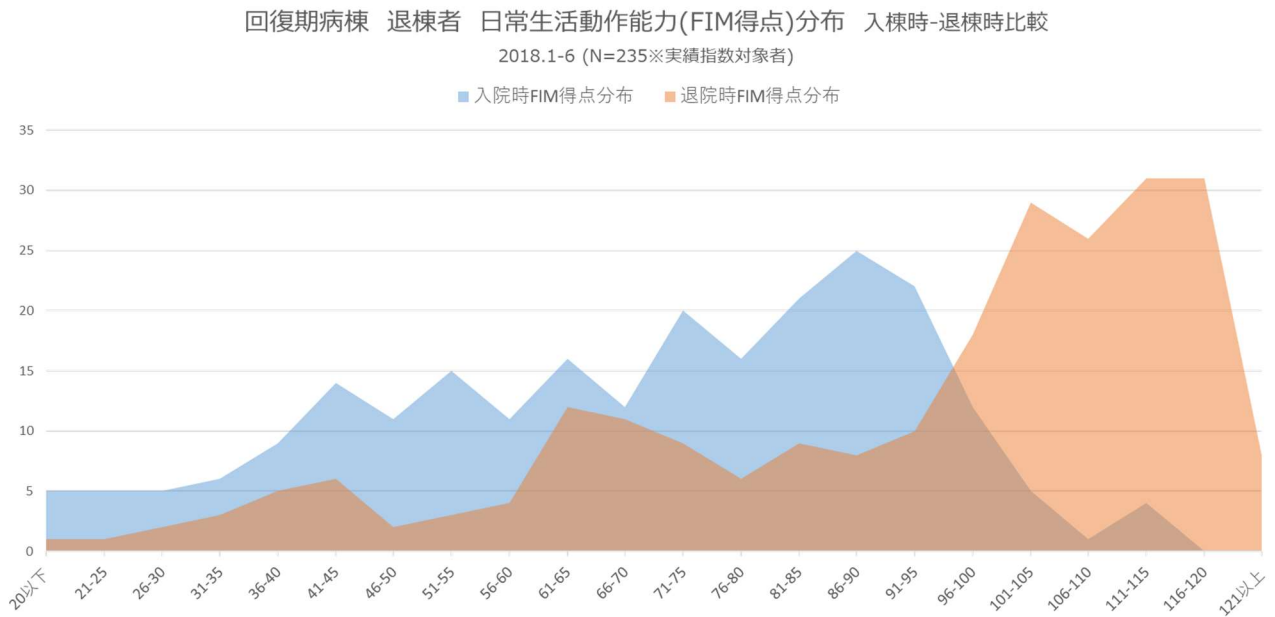


・脳血管疾患と比較し運動器疾患、廃用症候群の在院日数が短い傾向にある

・在宅復帰者と比較し、老健施設、療養病棟へ移られる方の在院日数が長くなる傾向が見られる

・入院時 FIM 点数が低い方ほど点数の高い方に比べ在院日数が長くなる傾向が顕著に表れている

3. 日常生活動作能力(FIM 得点)の分布と改善度・実績指数



- ・FIM(機能的自立度評価表※2)の得点分布は、全体的に改善方向へシフトしている。
- ・リハビリ開始時と終了時を比較すると、FIM の点数が平均で 24.5 ポイント改善している。(全国平均 21 ポイント)

※2:FIM(機能的自立度評価表)

日常生活動作(ADL)が自力でどの程度可能かを評価し点数化する評価方法。最高点が126点最低点は18点。得点が高いほど日常生活の自立度が高いことを意味している。

回復期病棟 退棟者 実績指数 2018.1-6 (N=236)	患者数	FIM運動項目 平均改善度	FIM認知項目 平均改善度	実績指数
退棟患者全体 (名)	236	21.83	2.48	32.76
(1)脳血管疾患、脊髄損傷、頭部外傷、くも膜下出血のシャント手術後、脳腫瘍、脳炎、脊髄炎、多発性神経炎、多発性硬化症、腕神経叢損傷等の発症、義肢装着訓練を要する状態又は手術後2か月以内 (名)	59	21.47	2.23	34.93
(2)高次脳機能障害の患者 (名)	28	30.14	5.03	55.14
(3)大腿骨、骨盤、脊髄、股関節又は膝関節の骨折の発症、二肢以上の多発骨折の発症後又は手術後2か月以内 (名)	124	20.87	2.12	29.6
(4)外科手術又は肺炎等の治療時の安静により生じた廃用症候群を有しており、手術後又は発症後2か月以内 (名)	13	20.92	2.61	27.01
(5) 大腿骨、骨盤、脊髄、股関節又は膝関節の神経、筋又は靭帯損傷後1か月以内 (名)	0	0	0	0
(6) 股関節又は膝関節の置換術後1か月以内 (名)	11	15.72	1.18	22.82
(7)その他 (名)	1	8	2	13.33

- ・全体的な実績指数(※3)は 32.76 点と厚生労働省が示す回復期病棟の目標値 27 点を上回っている。
- ・入棟理由別の実績指数は、重症脳血管障害/高次脳機能障害の方たちが 55.14 点と最も高く、FIM の改善率が高いことを示している。
- ・入棟理由別の実績指数は、関節置換術後の方たちが 22.82 点と最も低く、FIM の改善率の低さや、転院時期の問題等がうかがえる。

※3:実績指数

回復期リハビリテーション病棟の効果を計る指標として厚生労働省により報告が義務づけられている点数。入院期間が短く、かつ日常生活動作能力(FIM 点数によって評価)がたくさん改善すると点数が高くなるようになっている。